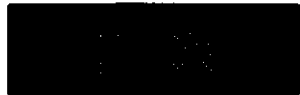


参 考 资 料

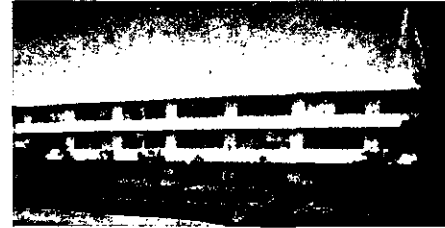


1. 職業能力開発総合大学校の概要	1
2. 職業能力開発総合大学校における指導員訓練	2
3. 総合大における指導員の養成と国立工科系大学との比較	4
4. 総合大における指導員訓練のカリキュラムについて（国立工科系大学との比較 ー機械分野ー）	5
5. 総合大・長期課程の専門実技について	7
6. 雇用・能力開発機構の訓練指導員のキャリアアップ	8
7. 職業能力開発総合大学校卒業生 就職状況	9
8. 長期課程の就職状況	10
9. 職業能力開発総合大学校と工業系大学とのコスト比較	11
10. 職業訓練指導員の再訓練	12
11. 職業能力開発総合大学校パンフレット	17
12. 訓練指導員に関する訓練施設に対するヒアリング（概要）	69
13. 訓練指導員に関する都道府県の訓練施設に対するアンケート（概要）	70

職業能力開発総合大学校の概要

1 設置目的

産業構造の変化や技術革新等に伴う訓練ニーズの変化に対応した訓練指導員の養成と再訓練を行う我が国で唯一の施設。



職業能力開発総合大学校外観

2 施設数 1校

3 訓練内容 職業訓練指導員の養成訓練（学生120名定員、4年間）・再訓練

4 訓練規模

養成訓練（20年度）	925人
再訓練（20年度）	1,618人（うち都道府県等の指導員：1082人）

5 養成訓練の就職率（平成20年度） 98.9%（うち指導員39.1%）

6 予算（平成22年度）

合計32億円（人件費17億円、管理運営費（光熱水料、警備委託等）3億円、業務費（訓練機器リース代、機器整備等）12億円）

7 職員数（平成22年度） 175人

8 学科 機械システム工学科、電気システム工学科、電子情報システム工学科、建築システム工学科

職業能力開発総合大学校における指導員訓練

① 職業訓練指導員の養成

- 1 高卒者等を対象に職業訓練指導員を養成するための4年間の課程
- 2 独立行政法人大学評価・学位授与機構から課程認定を受けているため、修了者には学士(工学)の学位が授与される。
- 3 指導員需要等に応じた抜本の見直しを行い、平成21年度入学者について、7科あった訓練科を4科に再編、定員を200名から120名に削減した。

訓練科及び定員の見直し

平成21年度入校生から学科の再編を行い、幅広い訓練ニーズに応えられるよう、訓練科の大括り化をするとともに、それに応じた定員の削減

(平成20年度)

機械制御システム工学科(30人)

精密機械システム工学科(30人)

電気システム工学科(30人)

電子システム工学科(30人)

情報システム工学科(30人)

通信システム工学科(30人)

建築システム工学科(20人)

計 200名

(平成21年度)

機械システム工学科(40人)

電気システム工学科(30人)

電子情報システム工学科(20人)

建築システム工学科(30人)

計 120名

指導員訓練

産業構造等の変化

指導員に求められる能力の変化

職業訓練ニーズへの的確な対応
職業訓練の質の向上と効果的な実施

職業訓練指導員に求められる役割を踏まえた特徴的なカリキュラムの実施

総合大学校の**5834時間**のカリキュラム

国立大学工学部
カリキュラムの
約2倍 ※

(※大学設置基準
による。)

職業訓練指導員に求められる能力

ものづくり関係

生産現場で実際に使用する設備・
機械による基礎から応用までの徹
底した技能訓練

技術変化への対応

(例)精密機械システム工学科
訓練する専門分野13種類31作業
うち技能検定2級レベル6作業
技能検定3級レベル25作業

訓練指導関係

- ・指導員としての心得
- ・指導技法
- ・指導案の作成の基本

ロールプレイング等
実践的なトレーニング

実務実習

(機構及び都道府県・民間の訓練施設
における指導員業務の実習)

キャリア・コンサルティング関係 訓練コースの設定・改善等関係

- ・キャリア・コンサルティング技法
(職業指導・相談)

- ・産業・経済の動向・能力開発
ニーズの把握の手法

- ・PDCAサイクルに基づき、訓練
コースを設定、実施、評価、改
善できる手法

総合大における指導員の養成と国立工科系大学との比較

総合大

ものづくりの技能の習得と同時に、人に技能を指導する方法を学ぶことにより、職業能力開発施設における中核的役割を担う指導員（他の指導員に対する指導・助言や施設全体の訓練の企画・マネジメントを行う。）を養成

国立工科系大学

「真理の追求」を教育目的とし、一般教養や学術的知識の習得及び実験等による理論の検証を行うことにより、専攻に係る専門知識と深い教養、総合的な判断力を有する人材を養成

<特長>

5,834時間

■職業能力開発の専門家に必要な知識及び技術を習得するため、「インストラクション(指導技法)」、「コース・コーディネート」、「キャリア・コンサルティング」などのほかに、企業でのインターシップや職業能力開発施設での実務実習を設定

■自ら技能・知識を習得するとともに、それらを他者に教えることができる能力を同時に身につけるために、専門分野の基本技術から実践技術の実技を設定。各免許職種について、技能検定2級(実務経験2年程度)の技能の習得が可能

■「学士」取得が可能となるよう他の工科系大学と同様の専門工学分野の学科のほか、複数の指導員免許の取得を目的に、免許職種に必要な幅広い専門科目の基礎から応用まで選択科目を設定

■数学、物理、英語などのほかに、指導者としての職業生活に必要な人文社会分野の「倫理学」、「心理学」、「経営学」、「経済学」等を設定

能力開発専門科目

750h

専門実技

2,704h

専門学科

1,088h

一般教育科目

1,292h

総合大(長期課程)

3,000時間

専門実技

1,530h

専門学科

750h

一般教育科目

720h

国立工科系大学

<特長>

■実験等を通じて専門学科で学んだ理論の検証と新たな研究等を行う教科等を設定

■国立工科系大学としての専門分野の学術的裏付けとなる理論を学ぶ教科等を設定

■数学、物理、英語などの一般教養を養うとともに「真理の追求」を求める社会分野の「倫理学」、「哲学」等を設定

総合大における指導員訓練のカリキュラムについて（国立工科系大学との比較）

－機械分野－

総合大 機械システム工学科

35教科:1224h

748h

476h

35	情報処理学 (コンピュータの概念)	34
34	創成デザイン (ものづくりにおけるデザインの役割、機能)	34
33	生産工学 (ものづくりの設計、アルゴリズム)	34
32	解析力学 (エネルギーと運動方程式)	34
31	ヒューマンインターフェース (人間の特性を考慮した設計・製作)	34
30	ロボット工学Ⅱ (複雑ロボットなどの構造と制御法)	34
29	機械保全工学 (機械部品の取扱い、調整、保守、管理)	34
28	微分方程式 (有変数系による近似解析手法)	34
27	基礎電子回路 (電気、電子回路技術の基礎)	34
26	計測工学 (計測の概念・測定技術)	34
25	ロボット工学Ⅰ (産業ロボットの構造と制御法)	34
24	精密測定工学 (精密測定の要領)	34
23	精密機械工学 (精密機器の概観と要件、特徴、メカニズム)	34
22	福祉工学 (福祉分野への工学的技術支援の方法と役割)	34
21	エンジニアリングデザイン (設計解析とモデリング方法)	34
20	機構学 (物体の位置、速度、加速度など解析手法)	34
19	外国文献講読 (専門用語の習得、関連情報の調査法)	66
18	機械加工工学 (工具材料の選択、量産加工条件の決め方)	34
17	デジタル生産工学Ⅰ (NC機械制御の技術の習得)	34
16	精密加工工学 (研削加工、ラッピング・ポリッシング、超音波加工)	34
15	フーリエ・ラプラス変換 (フーリエ解析とラプラス変換の基礎的観念)	34
14	環境工学 (製品の生産、ライフサイクル)	34
13		
12	安全工学 (危険源の特定と安全管理)	34
11		
10	熱力学 (理想気体の状態変化とガスサイクル)	34
9		
8	機械プロセス工学 (加工方法の基礎知識、工作機械群の用途)	34
7		
6	電気工学概論 (電気工学に関する基本的な知識)	34
5		
4	材料力学Ⅰ (部材の破壊、変形に対する抵抗、部材の安定)	34
3	材料力学Ⅱ (部材の応力とひずみ、座屈、部材の変形によるひずみ)	34
2		
1	機械力学 (振動が発生するメカニズムと強制予備)	34
NO	教科	時間

専門学科

■カリキュラムの特徴と相違点

○基本となる専門学科は両校共通。総合大が複数の指導員免許取得に対応して、幅広い専門分野の学科で構成。

北見工業大 機械工学科

23教科:840h

26	地球科学Ⅰ (地球の観測と生活の関係)	30
25	機械・社会環境工学入門 (機械工学と社会環境との関係)	30
24	構造力学基礎 (剛性に働く力のつりあひなど、構造物と力学の関係)	15
23	基礎化学及び同演習 (化学の基礎知識と実習的な展開)	30
22	エンジン工学 (エンジンの熱効率に際して)	30
21	高速流体力学 (高速気流密度と現象の解析等)	30
20	自動車工学 (自動車の機能要素と制御技術との関係)	30
19	流体システム工学 (航空用ガスタービン等の基礎から応用)	30
18	航空力学 (飛行力学の基礎について)	30
17	自然エネルギー工学 (太陽エネルギーなどの活用技術について)	30
16	統計処理法 (コンピュータによる統計処理)	30
15	伝熱工学 (熱エネルギーの伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射などについて)	30
14	環境工学 (環境とものづくりの関係)	30
13		
12	安全工学概論 (環境、産別化等を考慮したものづくり基礎)	15
11		
10	熱力学Ⅰ (熱移動の基本原理について)	60
9		
8	生産加工学基礎論 (機械加工、塑性加工、溶接等の基礎理論)	30
7		
6	基礎電気工学 (電気回路の基礎)	30
5		
4	材料力学Ⅰ (機械構造物の強度計算、応力とひずみ等について)	30
3	材料力学Ⅱ (梁の曲げモーメント、強み等について)	30
2		
1	機械力学 (機械振動の基礎と応用等について)	60
NO	教科	時間数

345h

495h

19教科:2704h

1428h

1276h

18	機械システム実習Ⅲ (旋盤、フライス盤による技能検定2級課題製作)	204
19	機械システム実習Ⅱ (被服アーク溶接、TIG溶接等)	204
16	精密加工実習Ⅱ (研削盤・ラップ盤による加工)	204
17	精密加工実習Ⅰ (旋盤、フライス盤による製作、工具選定、測定評価)	204
15	精密デジタル生産実習Ⅰ (NC工作機械の操作、プログラミング)	136
14	総合システム実習Ⅱ (機械分野の技術領域の統合による設計から製作)	136
13	創成デザイン実習 (ものづくりにおけるデザイン開発)	68
12	機械工学実験Ⅱ (機械の特性評価、精度検査、加工結果の評価)	68
10	精密デジタル生産実習Ⅲ (CAD/CAMシステムによるモデリングから加工)	68
11	精密デジタル生産実習Ⅱ (NC工作機械による技能検定2級課題製作)	68
9	メカトロニクス実習Ⅱ (コンピュータ制御と自動制御機器の取扱い)	68
8	卒業研究	544
7	インターンシップ (工場実習・実務実習)	120
6	機械システム実習Ⅰ (普通旋盤・フライス盤・平面研削盤・卓上ボール盤)	204
5	情報処理実習 (コンピュータを活用したデータ処理)	68
4	メカトロニクス実習Ⅰ (電子機器の取扱い、アナログ/デジタル信号処理)	68
3	機械工学実験Ⅰ (材料の熱処理特性や機械的性質)	68
2	総合システム実習Ⅰ (機械分野の技術領域の統合による設計・製図)	136
1	機械設計製図 (2次元CADによる機械部品の作図)	68
NO.	教科	時間

■カリキュラムの特徴と相違点

○総合大は「ものづくり力」の習得を、北見工業大学は「実験・シミュレーション」を通じて理論の習得を重要視。

○総合大は生産現場の実機(NC旋盤等)を使用して約1400時間の実習を実施。一方、北見工業大学では実機(NC加工機)を用いた実習は18時間程度で、実験等が中心。

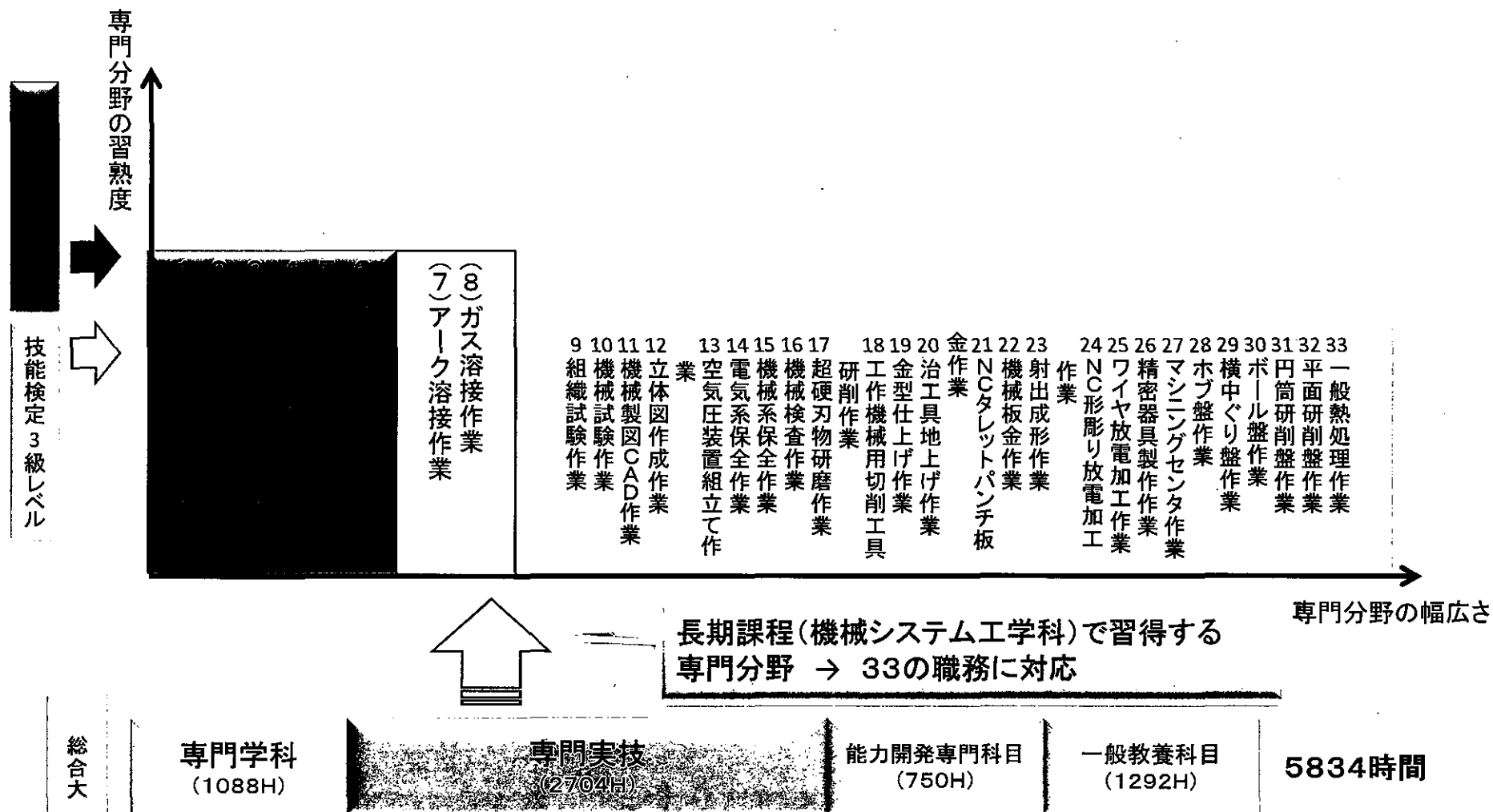
北見工業大 機械工学科

14教科:1350h

14	創造基礎 (機構や構造物の企画・設計・製作)	135	225h
13	CAE (CADによる物体のモデリングとコンピュータを活用した構造解析(有限要素法))	90	
12	卒業研究Ⅱ	225	1125h
11	卒業研究Ⅰ	225	
10	インターンシップ	45	
9	生産システム実習 (加工技術と制御技術の実習:NC加工機など実機を使った加工、ロボットの制御など)	90	
8	プログラミングⅠ (C言語等を用いたプログラミングなど)	135	
7	創成工学Ⅰ (マイコンを使った機器制御について)	90	
6	機械科学口試実験 (機械工学の発表実験と発表会)	45	
5	機構基礎実験 (機械工学の力に即する基礎実験)	45	
4	創成工学Ⅱ (CADによる構造解析に基づく設計変更、改良等最速設計について)	90	
3	機械要素設計演習Ⅰ (機械要素の動作、強度、役割を考えた設計演習)	45	
2	機械設計製図Ⅱ (機械要素、機構を組み合わせた設計演習)	45	
1	機械設計製図Ⅰ (基礎製図、機構の部品図や組立図の作成)	45	
NO.	教科	時間	

※総合大は176単位(5600時間)以上、北見工業大は128単位(2865時間)以上が卒業要件であること。

総合大・長期課程の専門実技について



(注1) 技能検定2級レベル……実務経験2年以上の中堅技能者が通常有すべき技能レベル
技能検定3級レベル…… " 6ヶ月以上の初級技能者が " "

(注2) 訓練する専門分野……技能検定の13職種31作業・溶接2作業に対応

雇用・能力開発機構の訓練指導員のキャリアアップ

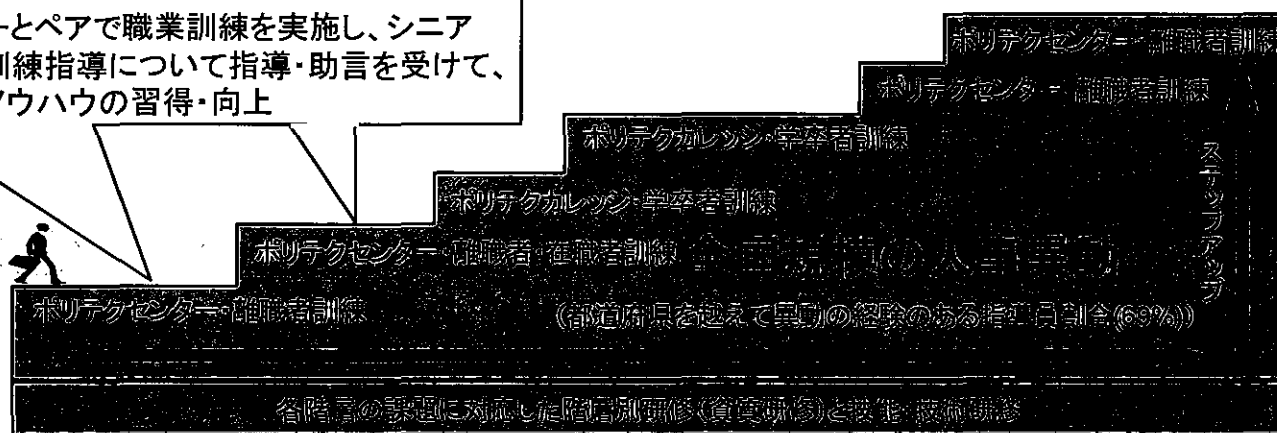
- ① 総合大で習得した技能・指導技法を基礎としつつ、シニアリーダー(ベテランの訓練指導員)とペアで職業訓練を実施し、シニアリーダーから訓練指導に関して指導・助言を受けることにより、訓練現場における指導力・訓練ノウハウの習得・向上が可能となる。
- ② 全国のポリテクセンター、ポリテクカレッジ等を異動することにより、複数のシニアリーダーから指導方法等について指導・助言を受けることにより、指導力・訓練ノウハウの高度化・広範化が可能となる。

階層 (年齢(構成比率))	ジュニアリーダー (~30歳前後まで(約18%))	ミドルリーダー (30歳前後~40歳前後まで(約37%))	シニアリーダー (40歳前後~(約45%))
資質課題	指導力の鍛錬	訓練コースコーディネータ力の向上	就職相談支援(キャリア・コンサルティング)力の向上 課題発見・解決力の向上
専門課題	基礎となる専門性の確立	専門性の拡大	複数の専門性の追求、関連専門分野の拡張

若手指導員が年長指導員の指導のもとに訓練を実施、企業と一緒に訪問することにより、

- 技能・技術
- 指導のノウハウ
- 教材開発方法
- 安全指導法
- 訓練生への対処方法
- 事業主との対応方法
- 企業が求める人材ニーズの把握方法と、訓練コースへの反映方法など

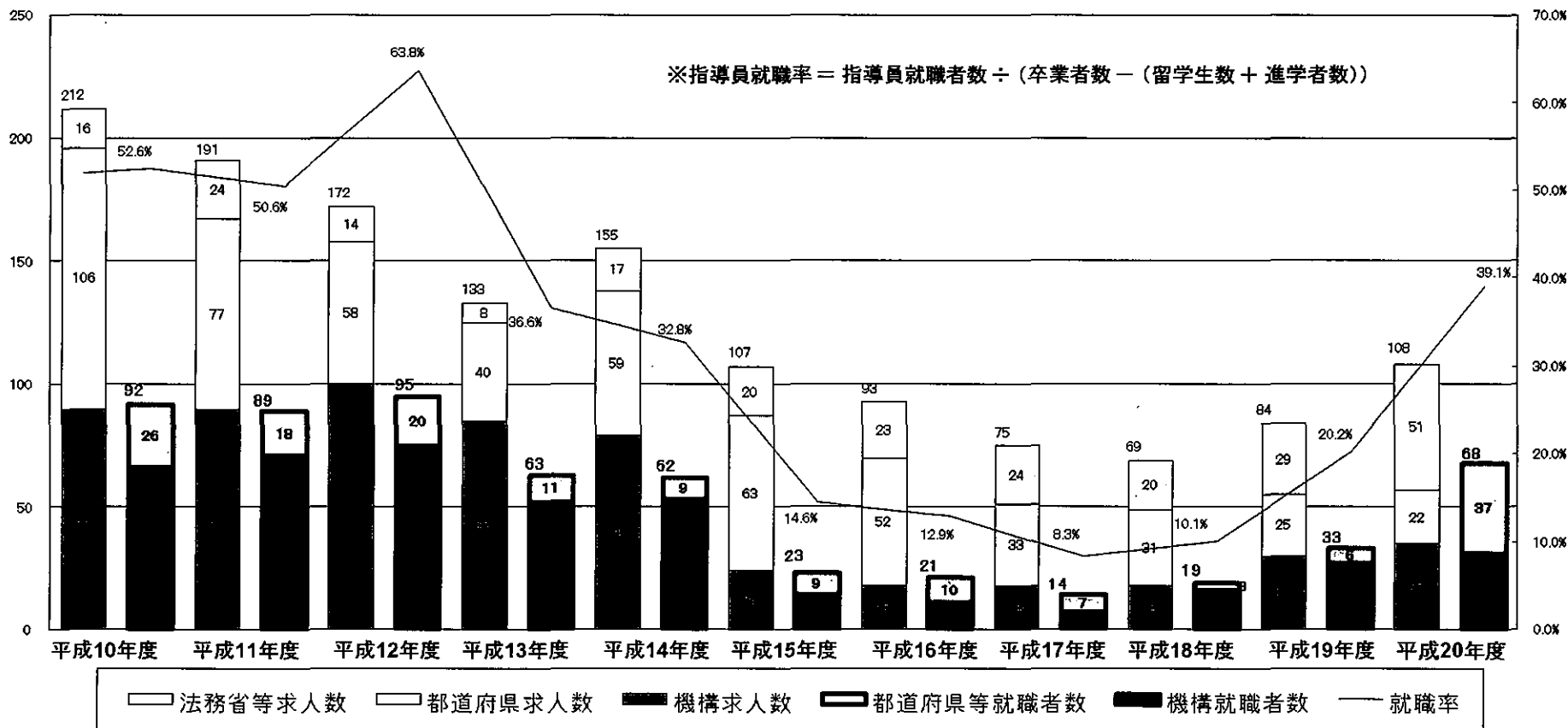
シニアリーダーとペアで職業訓練を実施し、シニアリーダーから訓練指導について指導・助言を受けて、指導力・訓練ノウハウの習得・向上



- ▶全国規模の人事異動により、地域ごとの特色ある訓練への対応能力の向上、専門性の幅と深さの拡大などのステップアップを促す指導員のキャリア形成
- ▶年度末に作成するキャリアシート(指導・相談支援等の実績)をもとにした管理者面談による実績確認・目標設定

職業能力開発総合大学校卒業生 就職状況

- 平成18年度の指導員就職率10.1%と比較し、平成20年度は指導員就職率が39.1%となり、指導員への就職率が29.0ポイントの大幅な増加
- さらに、入学試験への面接試験の導入、実務実習(教育実習)の早期化、指導員採用試験併願制の導入等様々な策を講じ、指導員就職率の向上を図る



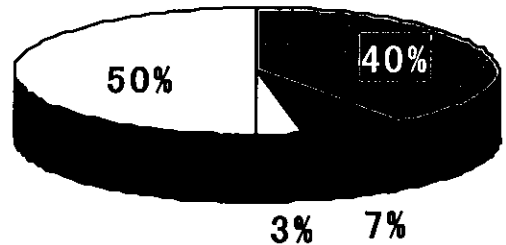
※都道府県等の求人数に対し就職者数が対応していない理由

- 都道府県の求人時期が、民間の内定時期以降と遅いことから、待ちきれずに希望者の大多数が民間就職に流れてしまうため。
- 希望する地域において、自分が免許を有する職種に係る募集があるとは限らず、求人と求職のミスマッチが生じること。

長期課程の就職状況

総合大卒進路概要(1964~2007)

民間企業就職内訳



■ 指導員就職 ■ 進学
□ 公務員等就職 □ 企業就職

指導員就職内訳

1. 都道府県立能開施設 9.5%
2. 雇用・能力開発機構 28%
3. 認定職業訓練施設 (高障機構含む) 1%
4. 法務省 1.5%

ものづくり系企業へ就職 80%

大企業への就職者割合 (6割) : 中小企業への就職者割合 (4割)

指導員就職先機関での総合大卒業生在籍状況

総指導員数: 2,593人
(注)
総合大卒数: 620人
24%

総指導員数: 2,067人
総合大卒数: 1,300人
63%

総指導員数: 不明
総合大卒数: 約60人

総指導員数: 543人
総合大卒数: 92人
17%

(注) 「総指導員数」には、非ものづくり系分野を含む。
認定施設は、民間企業における社員が指導員を兼務しているため総数が不明。

職業能力開発総合大学校と工業系大学とのコスト比較

職業能力開発総合大学校における学生1人当たりのコスト(試算)

学生数	経費	うち指導員 養成経費	学生1人当たりの 年間コスト
971人	44億円	36億円	368万円

※20年度実績より試算

工業系国立大学法人における学生1人当たりのコスト(試算)

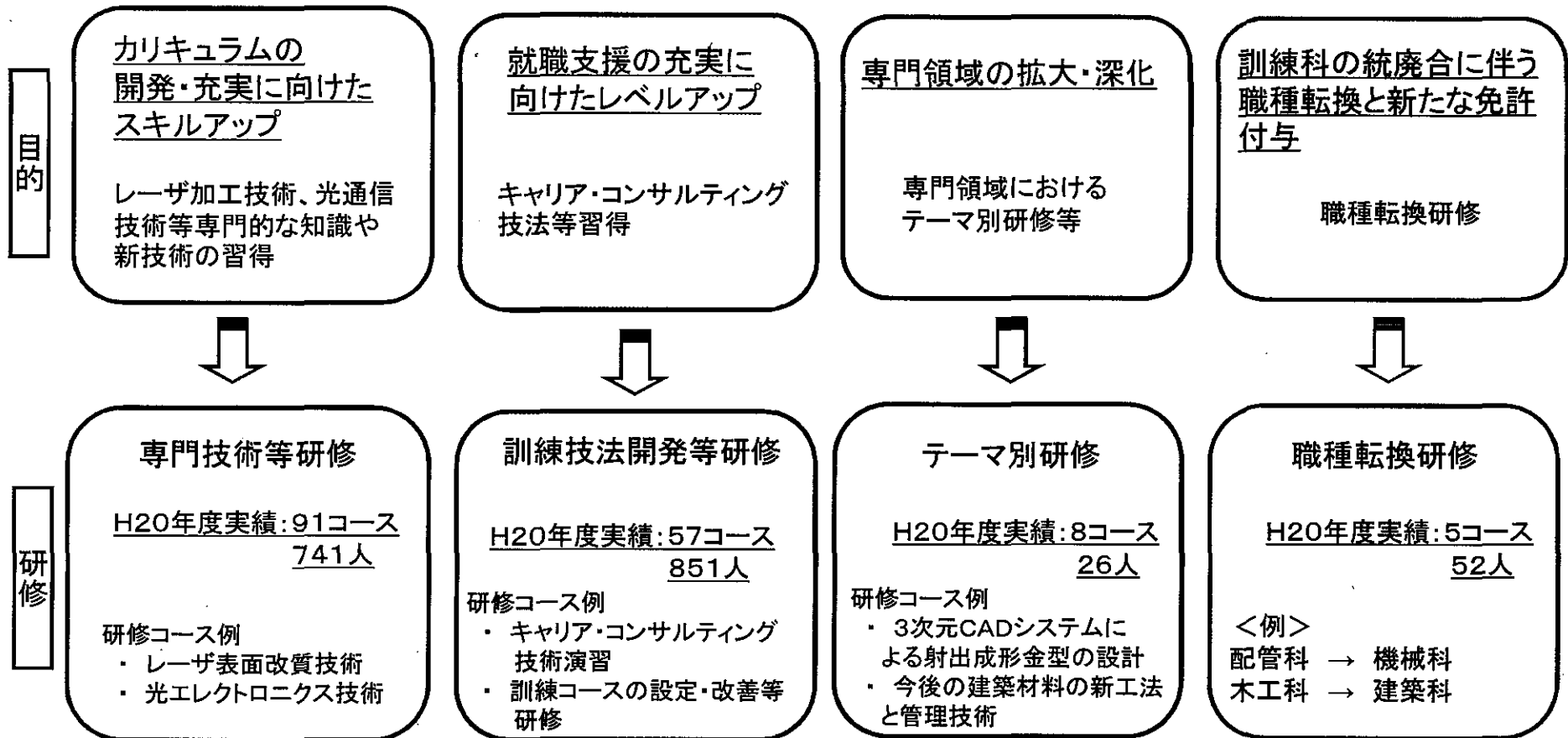
	学生数	経費	学生1人当たりの 年間コスト
A大学	2,060人	43億円	210万円
B大学	2,326人	63億円	273万円
C大学	10,081人	371億円	368万円
D大学	2,207人	68億円	308万円

※業務実施コスト計算書(H18年度実績)を参考に厚生労働省で推計

職業訓練指導員の再訓練

- ・最先端の技術を習得するための再訓練を実施
 - ・離職者の就職支援のためのキャリア・コンサルティング技法等の再訓練を実施
- 毎年、指導員総数の約1/3に対して、再訓練を実施

○H20年度実績 161コース 1,670人(うち都道府県50% 機構35% 民間 15%)



職業訓練指導員の再訓練

職業訓練指導員の専門性の拡大・レベルアップや新たな職種を担当するための研修を実施(H20年度実績 156コース 1,618人)

専門技術等研修(2日~5日)

(目的)
新訓練コースの実施、カリキュラムの充実に向けたスキルアップ

H20年度実績:91コース 741人



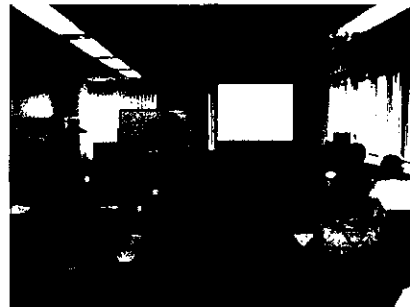
情報ネットワーク施工技術

在職者訓練において、例えばLAN構築施工・評価技術コース等を担当することができる。

訓練技法開発等研修(2日~10日)

(目的)
・就職支援の充実に向けたレベルアップ
・ニーズに基づく訓練コースの企画開発及び効果的な教材開発能力レベルアップ

H20年度実績:57コース 851人



カウンセリング技術演習

悩みを抱える訓練生からの求めに応じ、その問題解決が図れるようカウンセラーとしての援助ができる。

職種転換等研修(1年未満)

(目的)
訓練科の統廃合に伴う新たな職種への転換
例) 木工科 → 建築科

H20年度実績:8コース 26人



木造住宅の施工

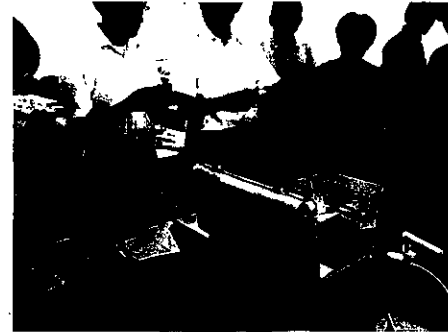
離職者訓練、学卒者訓練において、木造住宅の施工計画から検査まで、施工管理・コスト管理・安全管理を含めて総合的に指導できる。

職業訓練指導員の再訓練(事例1)

○専門技術等研修(2日～5日)

1 再訓練の目的

新訓練コースの実施、カリキュラムの充実に向けたスキルアップを目的とする。



情報通信配線の材料・工具

情報通信配線施工に使用する材料・工具について学ぶ。



ケーブルの施工1

ネットワークケーブル(ツイストペアケーブル(撚り対線))の施工技術を習得する。

2 情報ネットワーク施工技術(例)

情報ネットワーク施工技術とともに、実践的な情報配線施工法を習得する。



ケーブルの施工2

構内・宅内配線で使用するネットワークケーブルの施工技術を習得する。



ケーブルの施工3

ネットワークケーブルの成端(ケーブルにコネクタをつける)の施工技術を習得する。

3 習得できる知識及び技能・技術

- (1) 情報通信配線関連技術の基礎的な説明ができる。
- (2) 情報通信配線の施工法を知っている。
- (3) ネットワークの技術を知っている。
- (4) 構内、宅内の配線・設計ができる。
- (5) 構内、宅内の配線施工ができる。
- (6) 安全衛生作業ができる。

職業訓練指導員の再訓練(事例2)

○訓練技法開発等研修(2日～10日)

1 再訓練の目的

就職支援の充実に向けたレベルアップや、ニーズに基づく訓練コースの企画開発及び効果的な教材開発能力レベルアップを目的とする。

2 カウンセリング技術演習(例)

カウンセラーとしての資質、クライアントの信頼を得るための技法を演習を行うことによって習得する。

3 習得できる知識及び技能・技術

- (1) コミュニケーションの重要性について知っている。
- (2) 傾聴の重要性を知っている。
- (3) カウンセリングについて説明をすることができる。
- (4) 傾聴をすることができる。
- (5) クライアントの信頼を得るためのカウンセリング技法を知っている。
- (6) カウンセリングを行うことができる。



カウンセリングについて

コミュニケーション、カウンセリングの重要性について学ぶ。



傾聴

「傾聴」の効用、技法等、円滑なコミュニケーションを行うための手法を学ぶ。



訓練現場の問題点の洗い出し

訓練現場で抱えている問題点の洗い出しを行い、訓練生に対する対応を検討する。

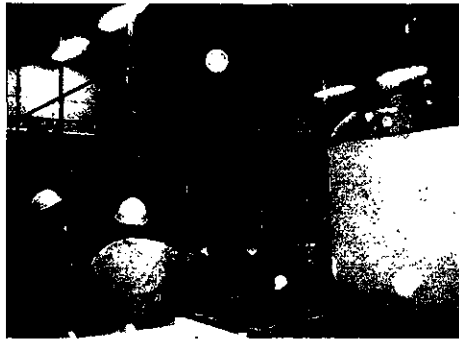
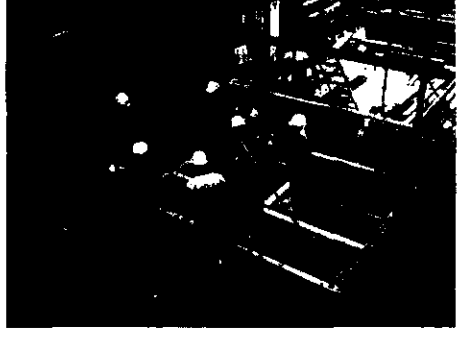




カウンセリング演習

クライアントの信頼を得るためのカウンセリングの手法を習得する。(演習)

職業訓練指導員の再訓練(事例3)

○職種転換等研修(1年未満)

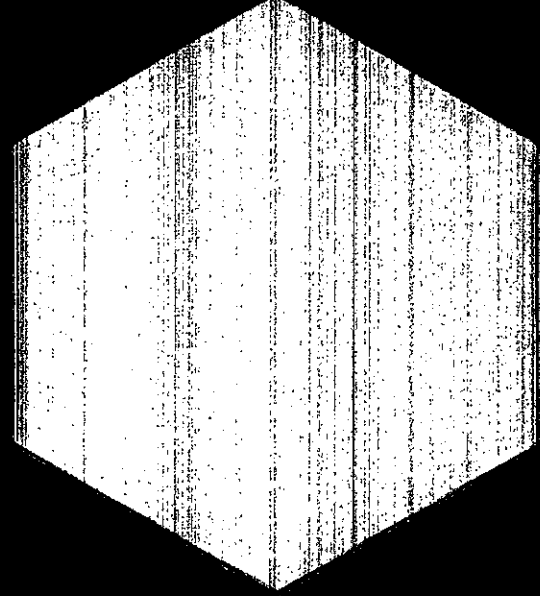
<p>1 再訓練の目的 訓練科の統廃合に伴う新たな職種への転換を目的とする。</p>		
<p>2 建築科(例) ○木造軸組施工技術の場合 本格的な木造住宅の構造、木材の接合方法(継手、仕口)を理解し、伝統的手法による丈夫な木造軸組住宅の墨付け・加工を行うために必要な技能・技術を習得する。</p>	<p>足場施工 木造住宅の施工のための足場施工の技能・技術を習得する。</p>	<p>土台の施工 土台施工のための2つの木材を接合する(継手、仕口)ための技能・技術を習得する。</p>
<p>3 習得できる知識及び技能・技術 (1)本格的な木造軸組構法の施工計画に関して理解できる。 (2)本格的な木造軸組構法の墨付け・加工ができる。 (3)土台、柱、小屋組の建て方ができる (4)接合部の耐力評価ができる (5)部材の上に割り付け、作図する方法(規矩術)を理解し、墨付けに応用できる。 (6)安全衛生作業ができる。</p>		
	<p>建て方 木造住宅の構造を理解し、柱の建て方の技術を習得する。</p>	<p>屋根の施工 木造住宅の屋根の構造を理解し、建て方の技術を習得する。</p>

2010

厚生労働省所管

 **SYOKUGYODAI**

独立行政法人雇用・能力開発機構
職業能力開発総合大学校



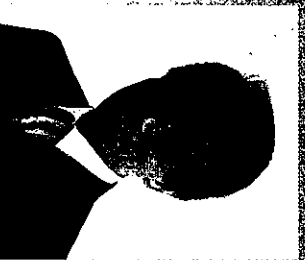
技は知の根源

2008年10月、技能オリンピック国内大会が千葉のポートアリーナで開催されました。

難しそうな部品を手早く加工・計測して組み立てていへ、手はもとより目、耳、鼻、時には舌まで使って作業し、そこからの触・視・聴・嗅・味覚のシグナルが脳に繋がって、必死に次の動作を思考している。なるほど、技(ワザ)が脳を動かし、構想し、初めて現実のモノ(技術)を創出していへくのだと確信しました。

皆さんが私たちが職業能力開発総合大学校に入学されると、このプロセスで技能と技術を体得し、そのメカニズムの不思議を工学の普遍的知識として学んでいへくのです。さらに培った技能・技術の知見を確実に他者へ教える方法、即ち指導力を身に付けます。本学は、技能・技術を修得するための実習設備を豊富に備えており、また、少人数による教授陣との対話型授業を可能とする施設なども整備され、丁寧な教育訓練がなされる環境が整っています。

これは、時間にかかる技能・技術の実習が非常に少なく、教室での授業が中心である一般の大学工学部とは大きく異なっています。皆さんが本学で4年間学ばれた後には、間違いなく"ものづくり"をベースとする人づくりのスペシャリストとしての能力が備わり、その証として「職業訓練指導員」資格と学士(工学)称号をダブルで得ることができるのです。ものづくりは、日本の立国の源泉です。皆さんが本学で学び、やがて我が国のものづくり及び人づくりに力を発揮されることを期待しております。





SYOKUGYODAI

目次

校長からのメッセージ	01
シンボルマーク	02
目次	03
卒業生インタビュー	04
職業大の特徴	06
「職業訓練指導員」とは？	08
大学の理念	10
学科解説	12
年次進行－開講科目[単位数]	14
能力開発科目	16
基礎科目	17
長期課程：【機械系】機械システム工学科	18
長期課程：【電気・通信系】電気システム工学科	22
長期課程：【電子・情報系】電子情報システム工学科	26
長期課程：【建築系】建築システム工学科	30
研究課程	34
キャンパス・インフォメーション	36
キャンパスライフ	38
学費・奨学金・学生寮	39
国際協力活動	40
同好会・クラブ活動	41
卒業後の進路	42
年間行事	44
附属施設紹介	45
FAQ - よくある質問	46
アクセスマップ	48

概要

学科解説

キャンパス・インフォメーション



卒業生インタビュー

私の人生を運命づけたのは、
同じ電気科の先輩との出会いでした。

日本電産株式会社 代表取締役副社長

小部 博志さん

昭和46年卒業

会社をつくるから来い…社長の永守氏からお呼びが掛かったのは、35年前のことでした。今でこそ世界規模で13万人の従業員を抱える駆動技術のトップメーカーに成長した日本電産ですが、当時はたった4人でゼロからの起業。そんな厳しい状況でも誘いを断れなかったのは、永守氏が職業大の先輩だったからです。入学のために九州から上京した私は、寮での先輩・後輩の關係に縛られるのが嫌で、迷わず下宿を探しました。ところが、この下宿の隣部屋にいたのが、4つ先輩の永守氏。「同じ第一電気科の後輩なら、子分にしたる!」と、このひとことで私の運命が決まりました。創業当初から当社が貫く「3つの精神」のなかに「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」というものがありますが、幸か不幸か、先輩に言われて酒の調達に当てなく夜の町を駆けずり回った学生時代、早くもこの精神を身につけた気がします。私はこれまで営業一筋でやってきたのですが、設立当時の売るものすらない無名の会社など、誰も相手にしてくれません。それでも訪問先を探しては会社のPRをしながら「モーター使っていませんか?」と聞いて回り、使っていればそれを借りて、見よう見真似で安価な同性能のものをつくって、仕事に結び付けていきました。単なる営業なら感性だけでもある程度は出来たかも知れません。でも、こうした「ものづくり」に直結した営業においては、職業大で学んだ技術や技能、そして「ものづくり」に対する姿勢が役立ちました。当社の社是は「我社は科学・技術・技能の一体化と…」ということばで始まります。これはまさに職業大の教育理念に通ずるものであり、その哲学がゼロをトップに急成長させた当社の礎となっているのです。

指導者として最も大切なこと。それを
職業大の教授陣から学びました。

宮城県立仙台高等技術専門校 副校長

加藤 正人さん

昭和51年卒業

職業に必要な基本技能知識を高卒者等に教える県立の高等技術専門校で、副校長をしています。職業大では、塗装科に在籍していました。入学のきっかけは、大学受験用雑誌のとある1ページでした。そのページに職業大の紹介があり、塗装科があることを知り、すぐに受験を決めました。いざ入学してみると、1、2年のうちは基礎的な勉強が多く、授業に追われる毎日でした。3年生になったころでしょうか、自動車や建築関連の塗装にも実習の幅が広がり、特にうるし塗りなどの工芸分野まで手がけたとき、改めて「塗装」の裾野の広さに驚かされました。職業大を選んでよかったことは、なんとといっても少人数制であることです。研究室の先生は素晴らしい実績をお持ちの方ばかりなのに、学生一人ひとりにとても気さくに接してくださいました。こうした先生方の指導を通して、人とのコミュニケーションの術を学び、さらに、人に何かを教えるにはまず相手と信頼関係を築くことが一番大切なのだということを学ばせていただいた気がします。自分が教える立場になっても、これが大変役に立ちました。新米時代は、技能面では実績を積まれた先輩方に、到底かなうはずがありません。そこで私はまず、学生からいかに信頼される先生になるかという自分なりの課題に取り組みました。この際、指導法を学んでいたことも、「教え方は先輩より上手いんじゃないか」という密かな自信につながりました。こうした職業大での経験があったからこそ、自分が担当した生徒たちとも深く関われ、信頼しあえる関係を築けたと思います。



多様なステージで活躍する先輩たち。職業大だから今がある。

「ものづくりから人づくり」まで学べる
ことが、唯一無二の職業大の魅力です。

独立行政法人 雇用・能力開発機構 神奈川センター
電気・電子系 講師

多々良 敏也さん

平成10年卒業

雇用・能力開発機構の神奈川センターで、家電製品などに組み込まれるマイクロコンピュータのプログラムを中心とした訓練コースの指導に当たっています。求職者向けのクラスでは、この難しい分野の最先端技術を6ヵ月間で習得させなければならないためハードルはとて高くなります。しかし訓練生の才能が開花し、希望の職場に就職できたときは、震えが来るほどの快感とこのうえないやりがいを感じます。さて、私が職業大を選んだ決め手は、高校の先生のアドバイスでした。高校2年の時に父親が亡くなり、経済的理由から国公立しか考えていなかった私に、先生が「ここなら国公立と併願できる上に学費も安い」と、願ってもないメリットを教えてくださいました。職業大は膨大な実習もこなさなければならないので大変な面もありますが、子供のころからものづくりが好きだった私には、機器やものに直接触れることのできる実習の多さは苦になりませんでした。その後、職場の新人教育に携わる中で、そうした経験がとて重要であることを実感し、職業大で行われている実習重視の教育の大切さを改めて認識しました。また、職業大のもうひとつの特徴である指導法の訓練も、日々の指導の大事なベースになっています。就職して間もないころ、「指導員は訓練生の目線で教えなければ意味がない」と先輩から教えていただきました。つまり、訓練生一人ひとりから跳ね返ってくる声をしっかり読み取り、それに合わせた教え方に変えていくことが重要なのです。こうしたときに、心理学なども網羅した指導法の勉強が役立ちます。このように、ものをつくることから人の育成まで学べる学校は、職業大のほかにはないと思います。

実務実習で見つけた私の進路、
今も歩み続けています。

国立職業リハビリテーションセンター 職業訓練部
訓練第一課 電気・電子技術科 職業訓練指導員

大内 夏希さん

平成19年卒業

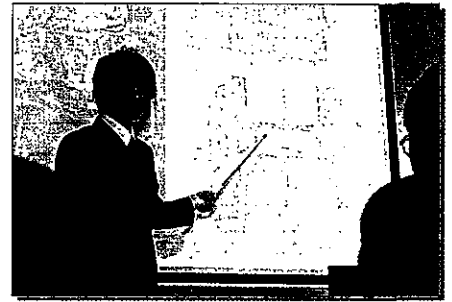
工学系の中でも異色の福祉工学科があると高校の先生に伺ったことから、職業大に興味を抱き、入学しました。在学中は車椅子や補聴器、自助具といった機器をはじめ、福祉や障害について幅広く学びました。職業大は女子学生の割合がとて少ないのですが、その分、女性同士の仲が良く、助け合える雰囲気が出ています。そのおかげで安心して充実したキャンパスライフを送れました。現在私は、障害者を対象に職業訓練と就職サポートを行う国立職業リハビリテーションセンターに勤めています。ここに就職を希望したのは、仕事も福祉関連に就きたいという思いからでした。とはいえ、職業大に入学した当初から指導員を志していたわけではありません。指導員という仕事を強く意識するようになったのは、能力開発の現場を体験する実務実習という必修授業がきっかけでした。実務実習では、主に知的障害や精神障害のある方を対象にした学科に配属され、集団授業や一对一の個別指導を担当しました。しかし、そのとき初めて指導員の仕事の難しさに直面し、現実には自分の思い通りにならないことを痛感しました。一方、こちらの工夫次第で成果が大きく変わるという、とてやりがいのある仕事だということも知りました。現在勤務する国立職業リハビリテーションセンター電気・電子技術科では、聴覚障害の方の指導も行っています。手話の全く出来ないまま入所した私ですが、訓練生の方々から教えていただいた手話を用いて授業にのぞめるようになりました。今後も実務実習で得た経験を大切に、指導員という仕事に向きあっていきたいと思っています。

職業大の特徴

特徴 1

職業大はある目的のために設立されました。
それは優れた「職業訓練指導員」の育成です。

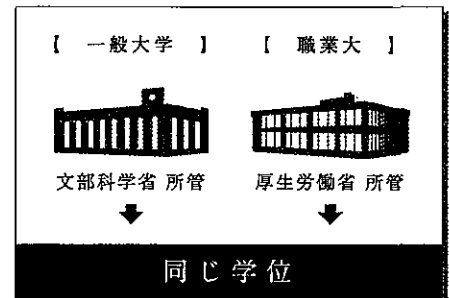
日本の産業界では今、高度な技術や実践力を備えた人材の育成が、今後の発展を左右する課題となっています。その先導的な使命を担っているのが、国や都道府県の職業能力開発施設等で指導に当たる「職業訓練指導員」です。職業大は、この「職業訓練指導員」の育成という明確な目的のもとに設立されました。指導者となるには技術や技能はもちろん、コミュニケーション力やプレゼンテーション力など、多様な能力が求められます。こうした多角的な能力開発を総合的に実践しているのが職業大なのです。また、その成果は資格の取得という形でも提供されます。長期課程卒業時に「職業訓練指導員」の免許が授与されるのも、本校の大きな特徴のひとつです。



特徴 2

大学ではなく大学校とは？
厚生労働省が管轄する職業大だからこそできることがあります。

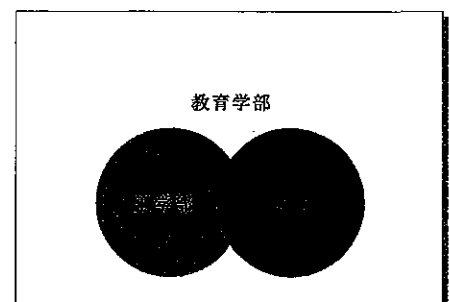
「大学」が文部科学省の管轄下にあるのに対し、それ以外の府省が管轄している高等教育機関が「大学校」です。なかでも厚生労働省が管轄し「独立行政法人 雇用・能力開発機構」が運営する職業大は、職業訓練、特にものづくりの教育訓練に携わる人たちのための教育訓練と研究を課題に、高度な技術・技能のみならず、人材育成にも精通した能力の育成を使命としています。しかも、こうした専門的な能力開発だけでなく、文部科学省の大学設置基準に準じた大学と同等の教育も施されています。このため、長期課程卒業時には「学士」、研究課程修了時には「修士」と、一般の大学や大学院と同等の学位が、大学評価・学位授与機構から審査のうえ授与されます。



特徴 3

「工学部」「教育学部」で学ぶこと、実践に即した「技能」。
この3つを全て習得できます。

職業大では、「ものづくり、人づくり」をキーワードに「科学・技術・技能の融合」を目指した教育を実践しています。ものをつくるために必要な科学・技術を学ぶことは、工学系の大学でも可能です。指導者として人に教えるノウハウは、教員養成課程を擁する大学でも習得できます。しかし「ものづくり、人づくり。」を課題とする本校では、工学部で学ぶ「ものづくり」と教育学部が提供する「人づくり」の教育訓練、この両者を同時に行います。さらに他校にはない特徴として重視しているのが、「技能」の研鑽です。学びを机上のみで済ませるのではなく、実技・実習を通じた実践的な「ものづくり」を鍛錬することで、即戦力となる力を育て上げていきます。



夢を実践力へと進化させる教育。選ばれる理由がここに 있습니다。

特徴 4

授業時間の差が学びを実践力に育て上げ、現場に即した揺るぎない実力へと進化させます。

本校のカリキュラムは、「ものづくり」に欠かせない知識や技術の習得にとどまらず、実践に即した「技能」の研鑽、さらには人材育成を担う指導者としての「教育訓練」をも網羅する豊富な内容で構成されています。このため授業の時間数は、他大学と比較すると膨大なボリュームになっています。特に「技能」を磨くための実験・実習には多くの時間を割り当て、経験を重ねることで、実際の現場で活かせる力を育てていきます。のんびり遊びに興じている暇はありません。しかし、本物の力を身につけたいという向学心には応えることが出来ます。これこそが本校が推進する教育であり、技術・技能を自分の実力として培うために欠かせないことなのです。

◎職業大の科目構成 (計178単位)		
基礎科目+ 基礎実技 <34>	専門科目(学科+実技) <112>	能力開発 科目 <30>
◎一般大学の例 (計124単位)		
一般教養科目 <48>	工学科目(学科+実技) <76>	この差が、 確かな実力に つながります。 ← →
※計176単位に任意の2単位を加えて卒業時総取得単位数となる ※平成21年度科目相当表に基づく		

特徴 5

圧倒的な就職率の高さは、高度な技術・技能、そして確かな実践力が培われている証拠です。

急速に展開される技術革新や世界的に広がるグローバル化により、我が国の産業構造や技術・技能者へのニーズも大きく変化しています。しかし、どの時代においても普遍的に求められているのが、ものづくりの基礎となる「技術」、実際の現場で実践力として活かしていくための「技能」、そして人づくりのための「技術・技能を伝える能力」です。職業大が主要な教育要素として掲げるこれらの能力を持った人材への要請は、職業訓練指導員をはじめとして、国や都道府県の公務員、各種団体の職員、そして多様性と柔軟性、応用力を兼ね備えた即戦力を求める民間企業など、官民を問わず幅広い場で活躍が期待され、その優れた能力と実践力が高い評価を受けています。

>> 主な就職先一覧

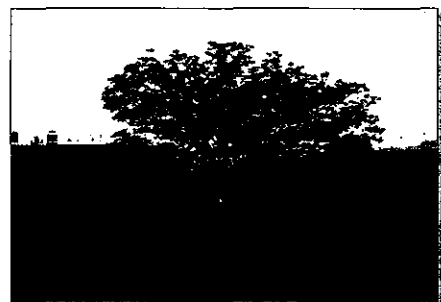
・都道府県立職業能力開発施設	・(独)雇用・能力開発機構
・法務省	・(独)高齢・障害者雇用支援機構
・中央労働災害防止協会	・(株)関電工*
・キャンノン(株)	・(株)きんでん*
・J R東日本(株)	・住友林業(株)*
・積水ハウス(株)*	・(株)デンソー*
・(株)豊田自動織機*	・日本電産(株)
・富士電機システムズ(株)*	・パナソニック電工(株)など

*企業内に「認定職業訓練施設」を設置

特徴 6

職業大ならではの教授陣と充実した施設。真剣に学ぶための万全の環境を用意しています。

職業大では、職業訓練指導員を目指す学生のために、「人づくりのための指導力」と「ものづくり力」の両方を兼ね備えた本学ならではの教授陣が、質の高い教育を実現しています。また、職業訓練指導員に必要な指導力、実践力を習得するために最先端機器を備えた実習施設を完備し、キャンパス内には図書館、スポーツ施設などの充実した付属施設や学生寮を設け、学生のみなさまが安心して学業に打ち込める環境を用意しています。



「職業訓練指導員」とは？

1

職業能力開発を支える専門家

仕事の技術や技能を新たに身につけたり磨いたりすることを職業能力開発といいます。職業能力開発は、職を求めている人たちが仕事を得るための、また働いている人たちがその仕事をレベルアップするための大切な取り組みです。このような取り組みは、個人の生活の向上はもとより、企業や産業の発展にも貢献しています。職業訓練指導員とは、スポーツ選手が高い能力の獲得を目指すときにアドバイスをを受けたり相談したりするコーチのように、職業能力開発の場において、自らの仕事を行う能力を高めようとする人々の取り組みを支えている専門家なのです。

2

法律に基づく職業訓練指導員免許

国では「職業能力開発促進法」という法律で職業能力開発のための活動を推し進めています。その法律に基づいて、都道府県知事が職業訓練指導員免許を交付します。免許の所持者は、仕事に必要な知識や技術・技能に習熟し、さらに仕事を人に教えるための専門的な能力も兼ね備えていることを公的に認められているのです。職業能力開発総合大学校は、この職業訓練指導員免許を卒業時に取得できる日本で唯一の教育機関です。免許は職種で分けられていて、本校で取得できるのは、産業界で需要の多い機械、電気、電子・情報、建築などの職種にかかる指導員免許です。

3

職業訓練指導員の活躍する場

職業訓練指導員の活躍の場は、「公共職業能力開発施設」と「認定職業訓練施設」の大きく二つに分けられます。どちらの施設も法律で定められた基準によって職業能力開発を実施しています。「公共職業能力開発施設」は国や都道府県が設置している施設で、「ポリテクセンター」、「高等職業技術校」、「技術専門校」など様々な呼び名で知られています。このような施設は全国に約300カ所あります。一方、「認定職業訓練施設」は企業や産業団体が設置しています。主に若い従業員を育成するための施設で、自動車や電機などのメーカーが運営する大規模なものから、中小の企業が共同で運営するものまで多種多様です。全てを合わせると全国で約1300カ所にもなります。

